

18-25歳対象 ジェンダーに関する 調査報告書2022

ジェンダー平等の実現なしに
持続可能な開発目標(SDGs)の達成はできないと考える
ユースチームが実施したジェンダーに関する調査





CONTENTS

00	はじめに	3
	調査概要	4
<hr/>		
01	女の子のイメージはどこから？	
	女の子／女性らしさについて	5
	女の子だから	7
	職場でのジェンダー	8
	学校でのジェンダー	9
	家庭でのジェンダー	11
	メディアでのジェンダー	13
	オンライントークイベントで見えてきたこと	15
<hr/>		
02	ライフイベント（出産後の仕事・育休）	
	女の子／女性だからと一括りにされているのか	16
	進路／就職を選ぶときの選択	17
	出産後の仕事	19
	育児休業	20
	女性版骨太の方針2022	21
<hr/>		
03	生理って恥ずかしいモノなのか	
	生理について誰となら話せるのか	23
	生理休暇は取れるのか	25
	生理休暇を取らなかった理由	26
	生理休暇を利用したいか	27
<hr/>		
04	避妊アイテムって誰が準備する？	
	避妊アイテムは誰が用意すべきか	29
	女性が主体的に避妊できる方法やツールは？	29
	世界のさまざまな避妊法	31
	相談できる場所や機関（避妊・性感染症など）	32
	性感染症や避妊方法はどこで学ぶのか	33
<hr/>		
05	おわりに	35

はじめに

調査のはじまり

ガールスカウトでは、2020年に4人のユース実行委員が集まり、「ジェンダー」に関する女子大学生調査を実施しました。このときの調査では、以下のことが明らかになりました。

- 女性は人生の選択の可能性を狭められていること
- 多くの女性は性的な嫌がらせや性差別を受けたことがあること
- 女性のあり方はメディアから大きく影響を受けていること

2020年に実施したジェンダーに関する調査から2年が経ち、調査をおこなったときから、社会では大きな変化がありました。例えば、ジェンダーという言葉が、社会でより認知される出来事がニュースなどで取り上げられることが多くなりました。また、コロナ禍では、女性が置かれている社会の現状や課題が浮き彫りになりました。これら社会の現状から、2020年のユース実行委員は新たに調査をおこなう必要性を感じ、新しくメンバーを募集しました。そして、10代・20代のメンバー8人が「私たちも調査を実施したい」と集まり、今回の調査を実施しました。

調査の目的

18～25歳の女性が社会で置かれている立場や意識を明らかにすること

仮説

調査を実施するにあたり、まず、ジェンダーに関して日々感じていることを話し合いました。その結果「女の子だからと一括りにされている」「身体的な理由で生きづらさを感じている」という意見が多数出ました。そこから私たちは以下の仮説を立てました。

- ① 人々は、家庭、学校、メディアから無意識のうちに影響を受け、性別による固定観念を植え付けられている。
- ② 生理や妊娠・出産など個人差のある身体的理由で、心理的・経済的・社会的に生きづらさを感じるのは、教育に課題があるからだ。

想い

生理についてオープンに話せるようにしたい

生理は女性にとって日常的にあるものなので、生理について話すことに抵抗感を持たず、誰とでも話せるような気持ちでいてほしいと思ったからです。生理のことで傷つく人がいない社会になってほしいという思いから、生理についてもオープンに話せる社会にしたいと思っています。

避妊アイテムを準備することにー(マイナス)なイメージを持たないでほしい

性に関することも女性自身が自己決定できることが大切だと考えます。その1つとして、避妊アイテムを自分が準備し、自分を守ってほしいと考えます。避妊アイテムを備えることをタブーとせず、女性たちに自分の身を守る方法を知ってほしい、パートナー間で話し合える関係を築いてほしいと考えています。

そんな私たちの想いを込め、表紙には「デイジー」という花をあしらいました。

花言葉は「ありのまま」です。

調査概要

調査対象：全国の18～25歳の女性
調査期間：2022年3月18日～4月30日

調査方法：インターネット回答 全45問
回答者数：491人

回答者の属性

▶回答数:491人（ガールスカウト会員211人 43%、一般280人 57%）



▶回答者の職業



※1 アルバイト経験あり49%・アルバイト経験なし13%
※2 フリーター3%含む

- その他**
- 掲載に当たり、自由回答形式の質問に対する回答は、一部表現を整えています。回答の本旨を尊重、反映できるように配慮しつつ必要に応じて言葉を追加したり、要約しているものもあります。
 - 数の処理について：構成比の割合は、小数点以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはなりません。

- 色の説明**
- 緑** 調査に関するデータを示しています。
 - 青** オンライントークイベントで得た情報や外部のデータ引用を示しています。

オンライントークイベント開催について

この報告書を発表するまでに、2つのオンライントークイベントをおこないました。

- ① オンライントークイベント"ジェンダーについて4つのテーマから考えよう"
- ② 18～25歳の女性の本音とは？ ジェンダーに関する調査結果のご紹介

1つ目は、調査の結果を基にユース年代で意見交換をする機会を作りたいと考え、イベントを開催しました。また、2つ目は、今回の調査に協賛いただいているマイクロン財団様の関係から、マイクロン合同会社の方に発表の機会をいただきました。これらイベントから見えてきたことも一部、報告書でご紹介します。

①オンライントークイベント

"ジェンダーについて4つのテーマから考えよう"

開催日：2022年6月25日
対象：18～25歳（性別問わず）
内容：「調査」の結果を基に、それぞれのテーマに関する活動家からお話を聞き、ユース年代で意見交換をする。

- 「私たちのキャリア選択」を考えよう
ゲスト：NPO法人 浜松男女共同参画推進協会 理事 近藤佳美氏
- 「未来のメディア×ジェンダー」を想像しよう
ゲスト：NPO法人 ジェンダーイコール 代表理事 田淵恵梨子氏 学生メンバー
- 生理についてオープンに話そう
ゲスト：国際NGOプラン・インターナショナル プラン・ユースグループ所属 久保裕花氏
- 避妊アイテムって誰が準備する？
ゲスト：#なんてないの プロジェクト 主宰 福田和子氏

②18～25歳の女性の本音とは？

ジェンダーに関する調査結果のご紹介

開催日：2022年8月1日
対象：米マイクロンテクノロジー社 日本グループの社員
マイクロン女性リーダーネットワークメンバー
内容：調査結果の報告および意見交換 生理休暇制度の取得状況や課題に感じることを共有していただいた。



01

女の子のイメージはどこから？

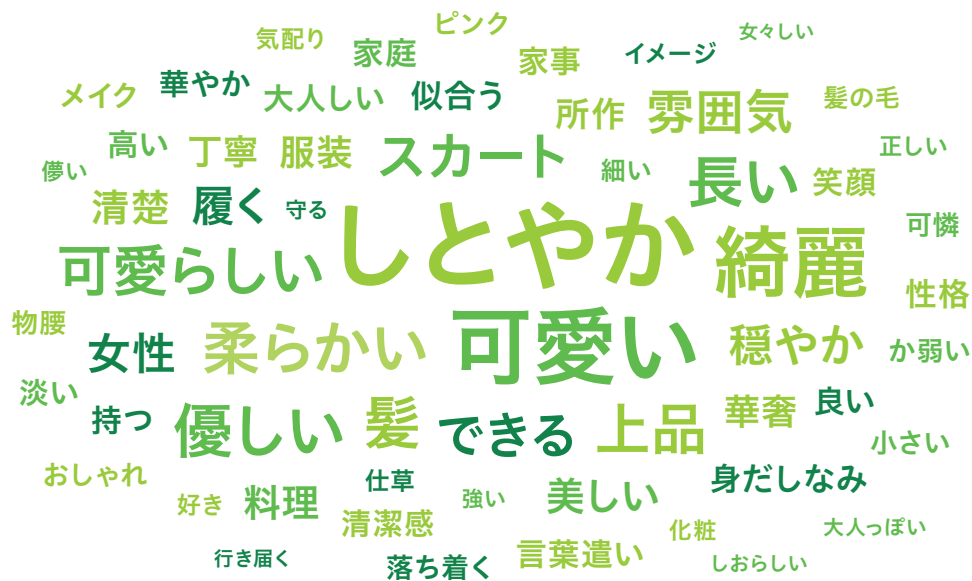
女の子／女性らしさについて

私たちは、「女の子らしくしないで」「女性らしくていいね」という言葉を聞くことがあります。この言葉は時に女性が「その人らしく」生きることを妨げる要因になると考え、「女の子らしさ／女性らしさ」という言葉について、今回の調査で質問をしました。

この章では、「女の子／女性らしさ」のイメージを作る原因やそれによる影響を場面ごとに分け、分析したものを紹介します。

調べてみると、女性たちは何らかの「～らしさ」を、幼少期から連続的に周りの環境によって刷り込まれていることがわかりました。

Q "女性らしい人"と聞いて、どのようなイメージがありますか。



この質問で回答された言葉を多い順に表示してみると、「しとやか」「可愛い」「柔らかい」「綺麗」といった言葉が多いことがわかりました。また、「料理」「家事」といった役割に関する言葉や、「スカート」「メイク」といった見た目に関わる言葉もあります。

調査対象の女性たちが「女性らしさ」と聞いて、ふるまい方はもちろん、役割や見た目についても固定されたイメージを持っていることがわかりました。

「女性らしさ」のイメージは、どこから？

「しとやか」「可愛い」といったイメージはどこで生まれるのでしょうか。

Q 幼少期に「男らしい」「女らしい」のイメージを持つきっかけになったものはありますか。
しつけ／おもちゃ／服／絵本の中から複数選択



回答から、主に服、おもちゃ、しつけの3つが関わっていることがわかりました。

「女の子らしさ」を最も印象付けるものとして多かったのは「服」で、65%でした。多くの女性にとって、色やデザインから、幼少期の「服」は「女らしい」のイメージ形成に関わっていることがわかりました。

Q 「女性はこうあるべき」という女性像を押し付けているのは誰だと思えますか。
父親／母親／祖父／祖母／兄弟／姉妹／女性の友人／男性の友人／パートナー／先輩や上司／先生から複数選択



回答で最も多かったのは「祖母」、次いで「母親」でした。これらの結果は、身近な存在である家族の女性が、女性らしさを押し付けていることを示しています。また、3番目に多かったのは、「先生」でした。先生の存在や発言は子どもに大きく影響を与えるため、教育のさまざまな場面で偏った性別のイメージにとられることなく、ジェンダー平等に配慮していくことが必要なのではないでしょうか。

Q メディアで「女性はこうあるべき」という女性像を押し付けているのは何だと思えますか。
YouTube／TikTok／Instagram／Twitter／ドラマ・映画／バラエティー番組／ニュース番組／CM／雑誌／小説・漫画から複数選択



回答で最も多かったのは、バラエティー番組、次いでドラマ・映画、そしてCMとなりました。SNSや紙媒体といった他のメディアも選択肢の中にありましたが、上位を占めたのはテレビ番組という結果でした。回答者の3人に1人はバラエティー番組が、4人に1人はCMが女性像を形成している一因となっていると考えており、これらのコンテンツは変わっていくべきではないでしょうか。

女の子だから

79%が「女の子／女性だから」という理由で何らかの制限を経験しています。特に、何かをしなさいと言われたことがある人は、半数近くに上りました。

Q "女の子／女性だから"という理由で、以下のことを経験したことはありますか。(複数選択可)

何かをしなさいと言われた	50%
何かをしなくていいと言われた	47%
不公平・不平等を感じた	38%
何かをやらされた	19%
何かをあきらめた	15%
.....	
どれも当てはまらない	21%



全体の**79%**が経験

みんなの声

- 女性なんだから、おしとやかでいなさいと言われた。
- 女の子らしい服を着ると言われる。
- 女の子だから座るときは必ず足を閉じなさいと言われる。
- 家庭は女性が守るものだから、家事は女性が率先してしなさいと言われる。



具体的にどんな経験があるか聞いてみると、「みんなの声」にあるような言葉をかけられた、という経験が最も多く、他にも、自分で持てる重さの荷物でも「女の子だから重いものを持たなくていいよ」という優しさと思われる言葉がけに疑問を持つ声が、自由記述のなかで16%もありました。今回、調査をした対象の女性たちは、さまざまな場面で「女性だから」という言葉のイメージや固定観念に疑問を持ち、行動や選択を制限をされていると感じていることがわかります。前回の調査※では、同じ質問をしたところ、女の子だからという理由でなんらかの制限を受けたことがある人は66%でした。この回答が前回と比較し、13%も増えたことは、これまで気付かなかったが「何らかの制限を受けている」と認識する女性が増えたといえるのではないのでしょうか。

※女子大学生×ジェンダー調査報告書2020参照

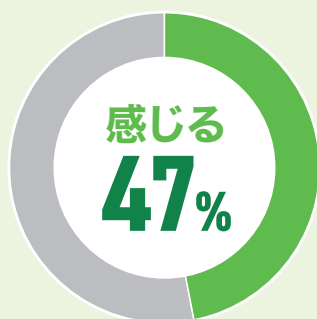
職場でのジェンダー

日常生活×ジェンダー

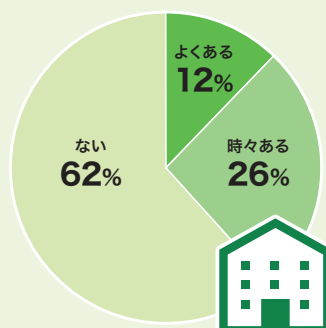
女の子らしさによる影響や女性像は私たちの日常生活から生まれていることがわかりました。ここで、私たちの身の回りのジェンダーについて、「アルバイト先・職場」「学校」「家庭」「メディア」の4つの場面に分けてみていきましょう。

アルバイト先・職場でのジェンダー (n=425)

Q アルバイト先・職場で「性別による役割の違い」を感じますか。



Q アルバイト先・職場で「女性はこうあるべき」という固定観念による、嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがありますか。



調査回答者のうち、就業経験のない人を除いた結果では、アルバイト先・職場で「性別による役割の違い」を感じると回答した人は47%、「女性はこうあるべきだ」という固定観念による何らかの嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがあると回答した人は38%でした。

みんなの声

- 取引先に上司(男)と伺い、一步下がってサポートしているような立ち位置であることを求められている。
- アルバイト中、女性はいい匂いであるべきだと言われ、ユニフォームを中年の店長に毎回嗅がれた。
- バイト先で女性の先輩が男性上司からセクハラ発言をされていたのを見た。
- 接客は女性だけ。重たいものは男性に持たせている。
- 何かミスをしたときに「これだから女は～」と、女であることが原因のように言われた。
- 台車を使っでの搬入など、「やらなくていいよ」と言われる。その分仕事が遅れるので「できますので」ときちんと伝えているが毎回言われると「女」が弱い生き物だと言われているようで苦しい。
- 職場で、女性は結婚したら家庭に入るべきと諭されている場面をみた。
- バレンタインデーのときに手作りしてきた女子に対して、「女子力あるね～」と言っていたバイト先の上司がいた。そもそも女子力って何??



「女性だから」という理由で、受けたくない嫌がらせを受けている人や、女性らしさのイメージを押し付けられている人がいることがわかりました。また、「力仕事はしなくてよい」など、気遣いのつもりで言っていることが、言われる立場にとっては差別に感じていることがあることもわかりました。

学校でのジェンダー

Q 学校は「女性はこうあるべき」という"女性像"を形成していると思いますか。



みんなの声

形成していると思う

- 先生から「女の子だから」おしとやかに、家庭的にという、社会進出よりも家庭を守るのが良いと捉えられる発言をよく耳にした。
- リーダー等の目立つことは男性が担う流れがあることによる、自らリーダー格になる必要はないという女性像。
- 「〇〇よ」「〇〇かしら」という言葉づかいはテストの問題文などで散見される。家事にいそむ専業主婦など、教科書の描写や問題文に多い。
- 年代が上がるにつれて性差を意識するのは分かるが、進路選択や科目選択、部活動、制服など、制度や風潮として「なんとなく分かれている」ことが多いように思う。空気を読んだり、荒波を立てない、強い自己主張をしないのが女性像になっているのではないかと思う。
- 保健体育で、女性は将来子どもを産み育てる存在として教育を受けた。女性像の形成というよりは男女枠の区別をつけてる印象が大きい。



みんなの声

形成していると思わない

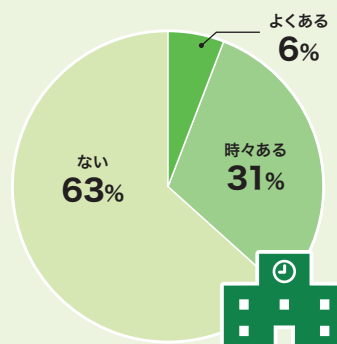
- 学校では比較的平等に扱われたため、特に女性像の形成はされませんでした。就職活動や社会に出てから一気に違いを感じることも多かったです。
- 女子高だったため女性であることをあまり意識しなかった。

「形成していると思わない」の意見の中には、自分の性別とその社会的役割を意識する必要がない環境が存在することで、「女の子だからできる／できない」と認識する必要がなく、性別による可能性が阻まれることが少ないことがわかります。

Q 学校で「性別による役割の違い」を感じますか。



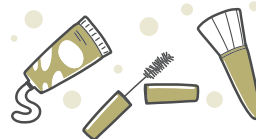
Q 学校で「女性はこうあるべき」という固定観念による、嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがありますか。



「女性はこうあるべき」という固定観念による、何らかの嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがあると回答した人は37%でした。

“ みんなの声 ”

- 女性が体育で派手に動くと、セクハラにも聞こえる冗談を交えて、子どもを産むんだからとたしなめる先生がいた。
- 男性職員が、女子学生が多くいる場所で「女性が化粧をしないのは非常識だ」というような発言をしていた。
- 中学や高校で容姿をいじられたり、胸を触る、胸の大きさについて発言するなどを見たことがあります。



性別による役割の違いを感じると答えた人は34%もいました。学校では、男子がリーダー、女子はサポート役というイメージを形成しているなどの声があります。

また、校則や先生の無意識な言葉がけが女性像を形成しているという声や、先生のふとした言葉に差別を感じているという声だけでなく、同級生との関わりで女性像が形成されているという声もありました。多様性を認め合えるような教育や制度が、先生や生徒たちの意識も変えていくのではないのでしょうか。

多様性を認め合う



家庭でのジェンダー

Q 家庭は「女性はこうあるべき」という女性像を形成していると思いますか。



アンケートに回答した491人のうち、50% (247人)の人が「家庭」が女性像を形成していると考えています。その中でも「家庭」が、「家事」「子育て」「結婚」についての女性像を形成しているという回答が目立ちました。

「家庭」が女性像を形成していると回答した247人のうち、128人は特に家事に関連した声を寄せています。

“ みんなの声

形成していると思う

- 女性が家事をしたり、子ども関係のことでお休みしたりしなければならないなど。
- 女の子として嫁に行くのが当たり前という価値観や親に孫を見せることが良いことだといわれる。これによって、結婚や出産を当たり前とする女性像が形成されていると思う。
- 母が料理をやるのが当たり前になっている。「手伝おうか」という言葉は、最近ではマイナス要素のある言葉だと思う。家庭は、ともに築くものだと思うので、「手伝う」ではなく一緒にやるものだと思う。



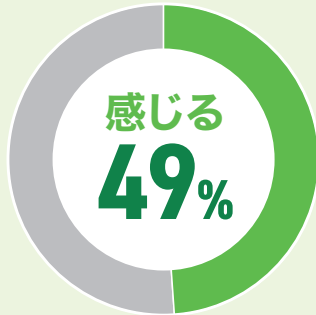
“ みんなの声

形成していると思わない

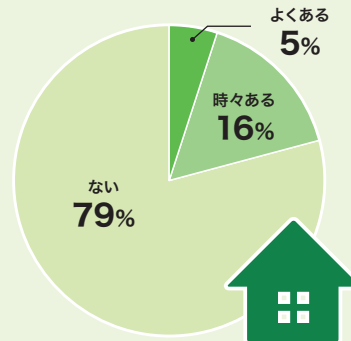
- 自分の好きなようなことをしていいと育てられたので女性像を想像させるようなことはなかった。
- 性別関係なく自分らしさを大切にしよう親に言われているので、家庭内での不平等さは感じたことがない。

家庭は家事や育児、結婚などの女性像を形成しているという意見がある一方で、性別にとらわれない環境が作られている家庭もあることがわかりました。

Q 家庭で「性別による役割の違い」を感じますか。



Q 家庭で「女性はこうあるべき」という固定観念による、嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがありますか。



「女性はこうあるべき」という固定観念による、何らかの嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがあると回答した人は21%でした。

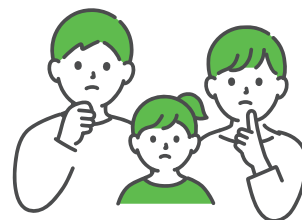
“ みんなの声 ”

- 母が姑から家事などを押し付けられる嫌がらせを受けていた。
- 父は、家事をまったくしない。仕事終わりで慌ただしく家事をする母を椅子に座って眺めて待ち、ご飯に文句も言う。食器を絶対片付けない、シンクにも持っていない。
- 義理の父の介護を母がひとりでしていた。
- 女性の友人は、家では自分ばかり家事をさせられて弟は何もさせられないと言っていた。
- 先輩がおじいちゃんに「女が東京の大学に行くなんてありえねえ」と言われていた。



「女性はこうあるべき」という固定観念による嫌がらせや差別では、女性に家事を強要することや、進学やライフプランに関するものがありました。また、家庭で受けている嫌がらせや差別を見た人は、21%と他の場面に比べると割合が少ないのに対し、性別による役割の違いを感じている人は職場や学校に比べ多いことがわかりました。みんなの声にもあるように、家庭での役割の違いは"当たり前"になってしまっているのでしょうか。

家庭内での 性別による役割の違いは "当たり前"？



メディアでのジェンダー

Q メディアは「女性はこうあるべき」という女性像を形成していると思いますか。



家庭や学校と比較すると、「そう思う」と回答した人の割合がとて高くなりました。メディアでは女性像が顕著に現れているということでしょうか。みんなの声をみてみましょう。

みんなの声

形成していると思う

- 女性にとっては結婚、出産が一番の幸せであるという定義付けをされている。
- 「料理男子」「リケジョ」「女社長・女医」など性別の母数が少ない方の人々には、わざわざ「女(子)」「男(子)」と付けてしまっている点において、その業界で働いたり、それを好む人達は異例だというイメージを形成してしまっていると思う。
- テレビでは女性が男性をサポートする役割を持つことが多いため、女性が男性を立てないといけないうイメージにつながると思う。
- 男性にモテることを目的とした女性の姿が求められている、と感じるようなコンテンツが多い。
- 幼少期に見るアニメなど、女の子らしさか男の子らしさのどちらかに内容をふり切ったようなコンテンツによって、女の子は戦隊もののヒーローのようにかっこいいのではなく、キラキラで可愛くなるのが良いというようなイメージを持つようになった。
- 強く自立している女性像。しかし、それが「対等」であるためではなく、「男性が楽するための押し付け」のように感じることが多々ある。
- 有名人の結婚報道で、女性だけが今後の活動を継続するかどうかと言及されることは、女性は結婚したら家庭に入るといった女性像を形成している。



みんなの声

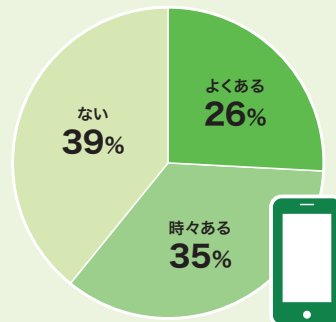
形成していると思わない

- 女性にも人生における選択肢が多くあることが取り上げられているのをよく目にするので、家事育児に縛られない自由な女性像もあると思う。
- SNSでどんな人をフォローするかによって女性像は変わってくると思います。
- 最近、優しい・しとやかではなく、女性なのに男性のようにバリバリ働くなどのかっこいい姿の女性像を形成していると思う。
- バラエティ、ドラマではルッキズムに基づくものが多かったが、ジェンダー問題を取り上げる番組も増えてきて、認識が広まりつつあるのは良いと思う。



「そう思う」という人の意見では、芸能人の見た目が世間一般に「良い」とされる見た目として、それが理想の女性像となっているという意見や、メディアが発信している「イクメン」や「女医」など性別を表す言葉を付随させた言葉が女性像を形成しているなどがありました。一方で、昔と比べると多様化しているという意見や、選択するメディアによって女性像は変化するという意見もありました。

Q メディアで「女性はこうあるべき」という固定観念による、嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがありますか。



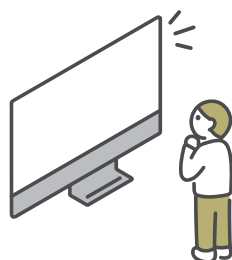
「女性はこうあるべき」という固定観念による、何らかの嫌がらせや差別を受けている場面を見たことがあると回答した人は、職場・学校・家庭・メディアの4つのうち一番多かったのはメディアで、61%にのびりました。

“ みんなの声 ”

- テレビでの女性タレントに対する過度な容姿いじり。男性タレントが女性タレントを品定めするような言動。
- バラエティにおいて、未婚の女性は「結婚できない女性」、男性は「独身貴族」。
- 電球交換をする男性が登場するドラマや、家庭を表現するCMで女性が料理をして、男性が仕事から帰ってくる構成を見かけると差別だと感じる。
- 脱毛やダイエット商品などの宣伝で、女性の体毛や体型に対する過剰な反応を示す表現などがある。
- 女性芸人さんが、「お前は女じゃない」といったことを言われて笑いをとっているのを見ると、本人は良くてそれを見た人は不快だし、それを見て笑う人も、「これ笑っていいんだ」と思うのがとても嫌です。
- バラエティ番組等で女性がイライラしていると、だいたい男性出演者から「生理中だろ？」というツッコミが入り、笑いになる。しかし、受け手にとっては嫌がらせだと思う。
- 司会は男性、アシスタントは女性。



メディアでは、司会は男性、アシスタントは女性などの役割による差別や、容姿をいじるような発言や構成が嫌がらせであるという意見がありました。家庭や学校とは異なり、第三者という立場で客観的に見るからこそ、役割の違いや差別に気づきやすいのかもしれませんが。また、幼少期から触れるメディアが、根本的な女性像を形成し、成長してからの学校や家庭、職場でのふるまいに影響しているのかもしれませんが。



オンライントークイベントで見えてきたこと

18～25歳の女性が考える未来のメディアって？

本調査に合わせて開催したオンライントークイベント※では、「女の子らしさ」「女性らしさ」のイメージに影響しているメディアについて、現状の問題分析と理想のメディアについて意見交換をおこないました。参加者は各チーム(テレビ・映画などの映像、雑誌・ポスターなどの紙媒体、YouTube・InstagramなどのSNS)に分かれ、いくつかのメディアに絞り、具体的な問題とその解決や理想について議論しました。そして、さまざまなアイデアが出てきましたので、以下で紹介합니다。

※ P4 ①ジェンダーについて4つのテーマから考えよう



バラエティー番組

現状の問題

- 司会者が男性など男性主軸で番組が作られている。
- 女性に対して容姿に関する発言がある。
- 芸人は男性の方が多いため、女性は望んでいないのに男性芸人と同じことを求められることがある。

理想

- 海外メディアなどを参考に、制作者側が一人ひとりを尊重している。
- 女性がメインまたは、多様性のあるコンテンツを、幼少期向けにも大人向けにも作られている。
- 「イクメン」や「女子力」など性的役割を決めるような表現が規制されている。

雑誌・広告

現状の問題

- 雑誌：小学生向け雑誌の特集で「モテる女子とは」などで女性像が作られている。
- 広告：保育学科の中吊り広告に女性の写真が多く使われており、保育士が女性の職業のようにとられる。

理想

- 雑誌：モデルを多様な人にし、多様なモデルの人物像から、自分の理想を見つけられる。
- 広告：ターゲットの多様性を促せるように固定の性別の写真は使われていない。

YouTube

現状の問題

- 多様性に対して教育が不足しているため、「女子力」の偏った女性像がポジティブに捉えられている。
- 発言に影響力があるYouTuberは言ったことがすぐに拡散され、価値観の再生産を担っている。
- 誰でもいつでも見られるコンテンツのため、情報の取捨選択能力がない状態だとすべてを受け取ってしまう。

理想

- 視聴者：自分に必要な情報の受け取り方を知っている状態で視聴している。
- コンテンツ：性教育など、学校では教えにくいトピックをより多く扱い、多様性についての教育の機会が多くある。



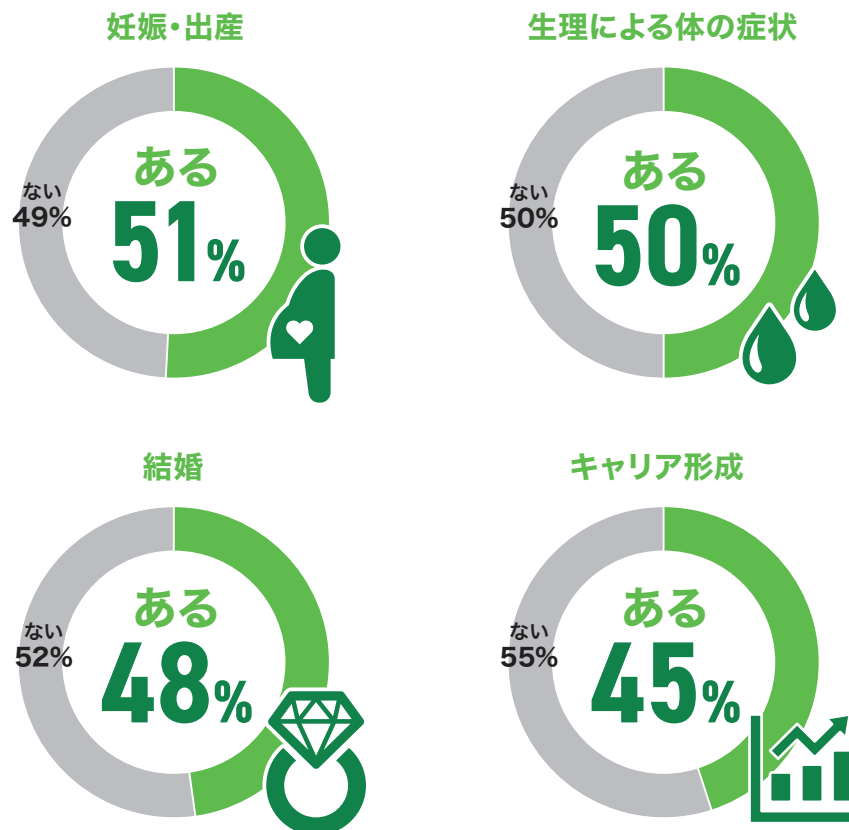
メディアの現状と、理想のメディアについて話すことで改めて問題を認識しました。そして、理想のメディアが実現するように、社会を変えていきたいと思いました。

02 ライフイベント (出産後の仕事・育休)

私たちは、社会の中で形成されたジェンダーバイアスから大きな影響を受けているのではないかと考えています。この章では、女性がライフイベントに向き合ったときに感じるジェンダーギャップについて、調査結果から見てきたこと、そして社会に対する課題を考察していきます。

女の子／女性だからと一括りにされているのか

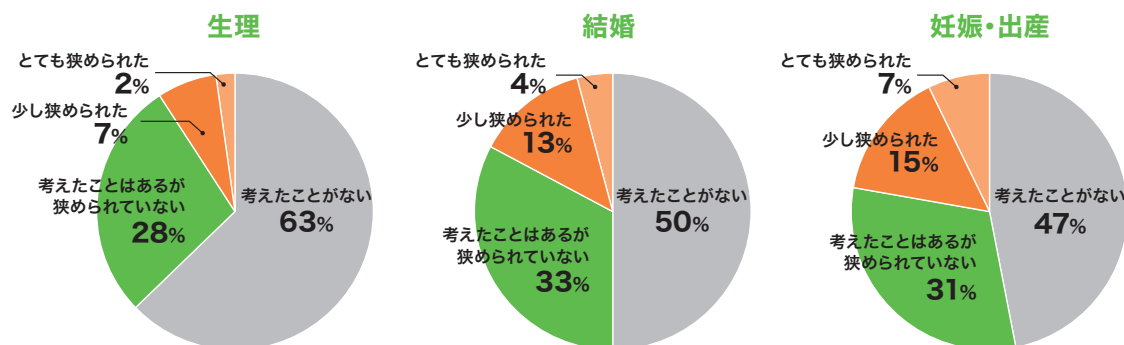
Q 個人差があるにも関わらず、「女の子／女性だから」と一括りにされていると感じることはありますか。



これらの項目はすべて、考え方や症状に個人差があるものです。しかし、「女性だから妊娠、出産するのがあたりまえ」など人々の意識には無意識の固定観念があると考えられます。人々が思い描くイメージにより、知らず知らずのうちに女性の選択肢は狭められているのかもしれません。

進路／就職を選ぶときの選択

Q 進路や就職を考える際に、以下のことを理由に選択肢が狭められたことはありますか。



「考えたことがない」を選んだ人の意見

生理について

- 生理でお腹や腰が痛くなって学校を休んだことはあるが、進路や就職に支障が出るとは思ったことがないから。

結婚について

- まだ結婚を考えていない、結婚するつもりがない。
- 結婚より進路や就職を優先したいと思っているから。
- 就職予定の仕事は結婚後も続けている人が多くいるから。

妊娠・出産について

- まだ考えていないが、女性の負担があまりにも大きいため、慎重になると思う。
- 妊娠・出産はしたくない。
- 妊娠・出産よりキャリア選択を優先しているから。

「考えたことはあるが狭められていない」を選んだ人の意見

生理について

- 大学受験のシーズンに生理がかぶるといつも通りの実力を発揮できなくなる恐れがあったので、ピルを飲んでずらした。
- 生理痛やPMSがひどいため、女性の体に理解がある職場であるかは考えた。

結婚について

- 結婚して相手から家庭に入ることとを求められたら自分のキャリアを犠牲にしなければならないため結婚相手は厳密に選みたい。(キャリア優先)
- パートナーの仕事に合わせて就職することは、狭められていると感じていない。

妊娠・出産について

- 時間等の融通が利くかを考えたが、それが難しい環境であっても必ずしもその職を諦める必要はないというキャリア観のため。

「少し狭められた」「とても狭められた」を選んだ人の意見

生理について

- 生理に伴う症状が重いので薬を飲まないといけない。
- 体調が悪くなったときでもできる仕事かどうか、月に一回は向き合わないといけないから。

結婚について

- 結婚する際に女性側が仕事を辞めなければならない風潮を感じる。
- 男性側についていかなければならないから。
- 結婚するうえで続けられる仕事、復帰できる仕事を選択した。
- 結婚するなら進学しない方がいいと考えてしまう。

妊娠・出産について

- 産休を取りやすいか、復帰しやすい職業かを考えた。
- 妊娠・出産をするタイミングで仕事をやめるべきかどうかを考えたから。
- 女性が育児のために仕事をやめるのが当たり前だという風潮を感じる。



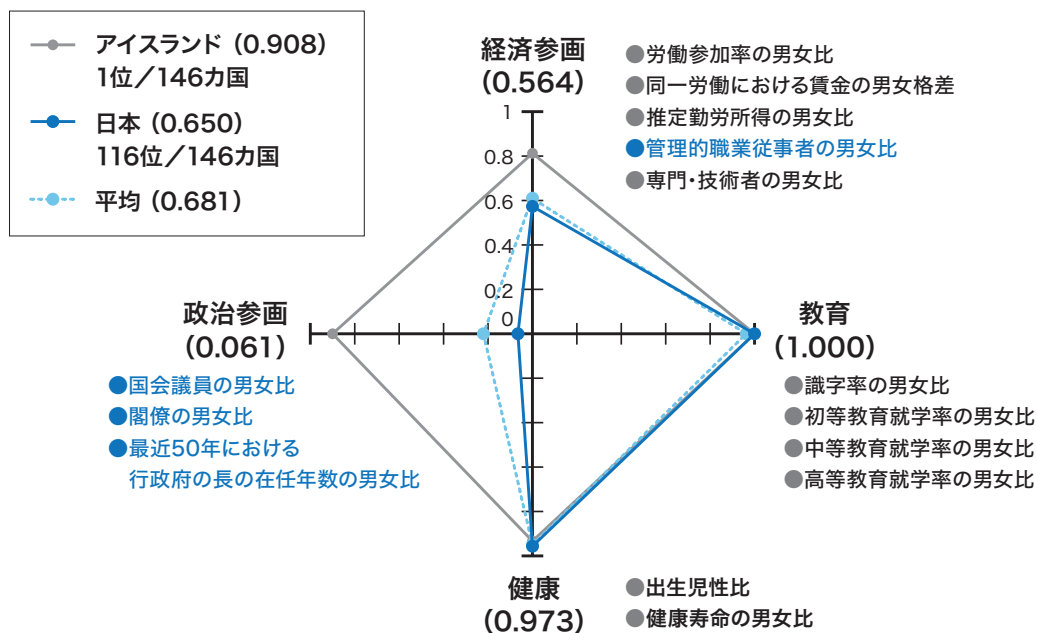
生理、結婚、妊娠・出産のどの項目においても、「考えたことがない」を選択する人が多い結果となりました。しかし、回答者の意見を見てみると、日常生活の中で女性が支障を感じていたり、性別役割を意識付けてしまうような言葉や環境が社会にはまだまだあることがわかりました。

この結果から、ライフイベントの選択において女性が社会からどのようなジェンダーギャップの影響を受けているのか気付いている人が少ないのではないかと考えました。そしてその原因として、ジェンダー教育の機会の少なさ、さらにはキャリア教育に関してジェンダーの視点からライフイベントを考える機会がないことが影響しているのではないかと私たちは考えました。



▶ ジェンダーギャップ指数

引用：内閣府男女共同参画局「共同参画」2022年8月号より



(備考) 1.世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2022)」より作成
2.スコアが低い項目は青字で記載
3.分野別の順位: 経済(121位)、教育(1位)、健康(63位)、政治(139位)

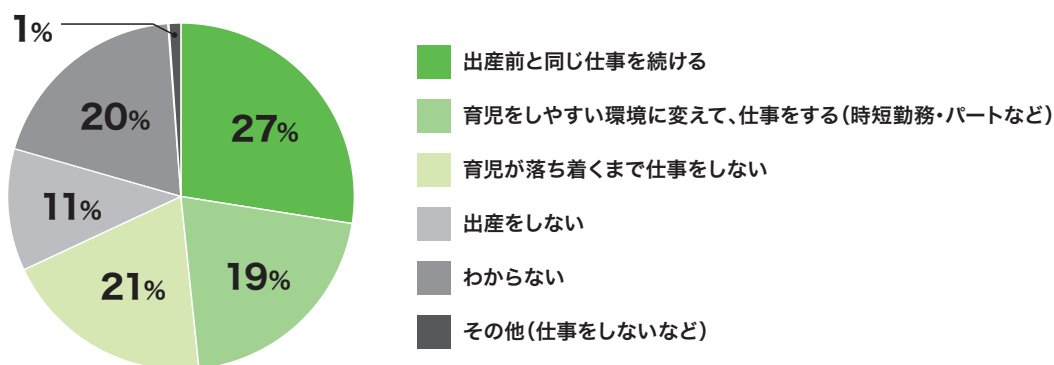


ジェンダーギャップ指数の4項目のうち、女性の労働参加率、同一労働の賃金格差、収入の格差、管理職の女性割合などの指標から算出される「経済参画」の数値が日本は0.564となっています。これが146カ国中121位の数字であることから、女性のキャリア選択に障壁があることが分かります。また、「政治参画分野」では、0.061で139位と男性中心に政策が進められていることも大きな課題です。

出産後の仕事

出産をするという選択をした場合、女性は産前産後休業等で一時的に職場から離れることがほとんどです。出産後の仕事について、どのようなイメージがあるのでしょうか。

Q 出産後の仕事についてどのように考えますか。



みんなの声

出産前と同じ仕事を続ける

- 仕事にやりがいを感じているから。キャリア形成を産産で諦めたくないから。
- 再就職などは難しいから、仕事内容を知っている会社の方が復帰しやすい。
- 出産してもその仕事を続けている方はたくさんいる。
- 経済的にパートナーに依存したくないから。
- 共働きでないと生活できないから。
- 職場に産休・育休の制度がしっかりとあるため。
- 子どもにも働く姿を見せたい。

育児をしやすい環境に変えて、仕事をする(時短勤務・パートなど)

- お金も稼ぎつつ育児もしっかりしたい。両立したい。
- 子ども優先で仕事が一番ではないから。
- 家庭以外でコミュニティがほしいから。
- 今の環境は、女性がキャリア形成できる環境ではないと感じるため。
- すぐに保育園に預けられるとは限らず、時間を制限される可能性が高いため。

育児が落ち着くまで仕事はしない

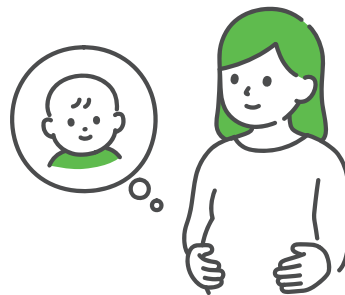
- 育児と両立するのは難しいうえ、育児のために職場に迷惑をかけたくないから。
- 子育てに専念したい。
- 成長の大事な時期はつきっきりで育児をしてあげたいから。

わからない

- 出産してみないと体調面等わからないから。
- 相手やそのときの社会の状況次第。
- フルタイムで仕事を続けたいと思いつつ、自分が家にいないことで子どもに寂しい思いをさせたくないという希望もあるから。
- 出産せず仕事とパートナーのために暮らしたいが、考えが変わったり出産せざるを得なくなってしまうかもしれないから。
- 夫の給料にもよるし、母に育児を手伝ってもらえるかどうかもわからないから。

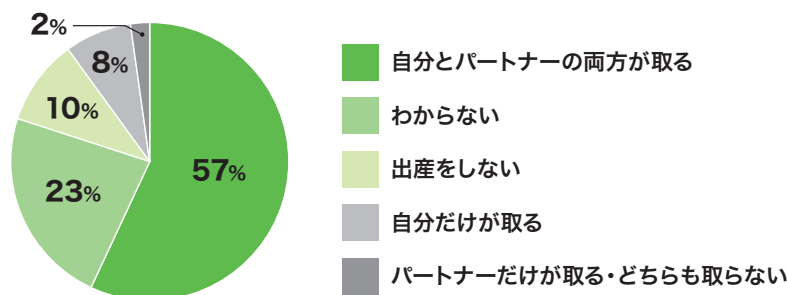
仕事をしない

- 専業主婦になりたい。
- 子育てに専念したい。
- 仕事のストレスを自分の子どもに影響させたくないから。



育児休業

Q 出産後の育児休業についてどのように考えますか。



自分とパートナーの両方が育児休業を取ることを想定している人が多いようです。出産後の働き方には、自分とパートナーがどのように育児休業を取るかが大きく関わってきます。

男性の育児休業取得率の低さ



今回の調査では、「育児休業は自分とパートナーの両方が取る」と考えている人の割合が高くなりました。厚生労働省 令和2年度雇用均等基本調査によると、男性の育児休業取得率は12.65%と過去最高の取得率だったものの、女性は81.6%と比べ男性の育児休業取得率は、まだまだ低い現状であることが分かります。

みんなの声

- 男女間で給料や昇進スピードに差がある。
- 育児休業はキャリアダウンになるという捉え方がある。
- 家事や育児は女性の仕事、外で稼ぐのが男性の仕事という古くからの考え方がある。
- 両方が育児休業を取得しても経済的に生活していけるような援助や十分な給与があれば、男女両方が取得することは身近になると思う。
- 男性と女性の給与の差のため、女性が休むことを選択する人が多いのだと思う。
- 社会全体で「育児は女性がするもの」という考えが根深いからだと思う。
- 女性は休む・辞めるだろうという固定観念がある。
- 家計を支える為に仕方がないことかもしれないと思う。

「みんなの声」にあるような社会の意識が、男女の育休取得率に大きく影響していることがわかります。



解決策

- 男性が取ることでどのような利点があるかをメディアに載せれば変わると思う。
- 会社が積極的に推進していくべきだと思う。



令和3年6月に育児・介護休業法が改正されました。令和4年4月1日から段階的に施行されます。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/shokuba_kosodate/index.html
厚生労働省「職場における子育て支援」

女性版骨太の方針2022

日本の男女共同参画の現状は、諸外国に比べて立ち遅れていること、問題を解決するための具体的な施策が書かれています。例えば、昭和の時代に形作られた各種制度、男女間の賃金格差を含む労働慣行、固定的な性別役割分担意識など構造的な問題があげられています。人生100年時代を迎え、女性の人生と家族の姿は多様化し、これまでの意識は通用しないとされています。「女性版骨太の方針2022」は、「第5次男女共同参画基本計画」を着実に実行するために令和4年度及び5年度に重点的に取り組むべき事項です。皆さんの具体的な取り組みが提示されていますが、ここでは、どんな項目があるかを紹介します。

図の説明 注目してほしい情報、疑問に感じたことと、関連している章を紹介

I 女性の経済的自立

- (1) 男女間賃金格差への対応
- (2) 地域におけるジェンダーギャップの解消
- (3) 固定的な性別役割分担意識・無意識の思い込みの解消
- (4) 女性の視点も踏まえた社会保障制度・税制等の検討
- (5) ひとり親支援
- (6) ジェンダー統計の充実に向けた男女別データの的確な把握

まだ男女賃金って格差があるの？
同一労働同一賃金だと思っていたのに。

無意識だから、なかなか気付くのは難しいよね。無意識の思い込みをなくしていくにはどうしたらいいんだろう。「01 女の子のイメージはどこから？」の章も読んでみよう。

II 女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会の実現

- (1) アダルトビデオ出演被害対策等
- (2) 性犯罪・性暴力対策
- (3) 配偶者等からの暴力への対策の強化
- (4) 困難な問題を抱える女性への支援
- (5) 女性の健康
- (6) 夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方

ワンストップ支援センターの体制強化や、「痴漢撲滅パッケージ」の取りまとめもおこなわれるみたい。刑事法の改正の検討もされているよ。「生命(いのち)の安全教育」も取り組みが始まっている。

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)やヘルスリテラシーがますます重要と考えられているんだね！

予期せぬ妊娠への対応として、緊急避妊薬を処方箋なしに薬局で適切に利用できるよ、「パブリックコメント」を実施するなど検討を進めているんだ！「04 避妊アイテムって誰が準備する？」の章も読んでみよう。

女性の健康課題を技術の力で解決する「フェムテック」の更なる推進が予定されているよ。「フェムテック」を聞いたことがない人は検索してみよう。「03 生理って恥ずかしいものなのか」の章も読んでみよう。

参考: <https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202207/pdf/202207.pdf>



「男女共同参画」具体的な施策

内閣府男女共同参画局のホームページ
男女共同参画基本計画

グラフもあって
読みやすいよ。

III 男性の家庭・地域社会における活躍

- (1) 男性の育児休業取得の推進及び働き方の改革
- (2) 男性の育児参画を阻む壁の解消
- (3) 男性の孤独・孤立対策

政府が考える「男性の育児休業取得の推進及び働き方の改革」が進まない理由は？
「02 ライフイベント」の章も読んでみよう。

IV 女性の登用目標達成 (第5次男女共同参画基本計画の着実な実行)

- (1) 政治分野
- (2) 行政分野
- (3) 経済分野
- (4) 科学技術・学術分野
- (5) 地域における女性活躍の推進
- (6) 国際分野

まだ、約3社に1社は女性の役員がいないんだ。教育分野ではどうなんだろう。

政治分野におけるハラスメント防止のための取り組みが進んでいるよ。

男女ともに働きやすい環境をすすめているよ。
「02 ライフイベント」の章も読んでみよう。

参考：<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202207/pdf/202207.pdf>



【約10分でわかる】女性版骨太の方針2022
内閣府男女共同参画局公式YouTube
<https://www.youtube.com/watch?v=t00zzadjgEU>



「女性版骨太の方針2022」詳細
<https://www.gender.go.jp/policy/sokushin/sokushin.html>



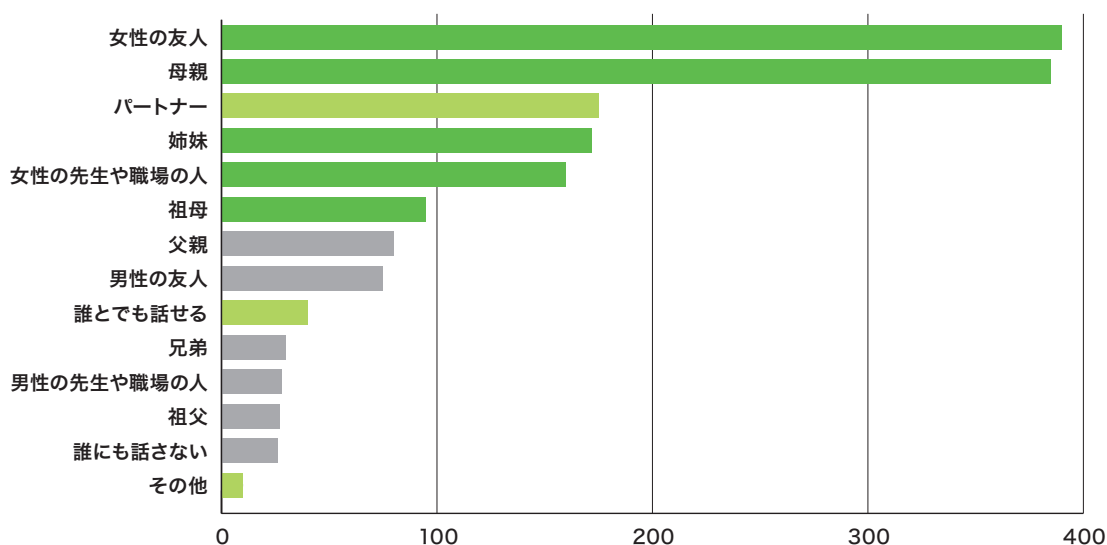
「生命(いのち)の安全教育」とは
「生命(いのち)の安全教育」は、「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」を踏まえ、子供たちが「性暴力の加害者、被害者、傍観者」にならないために文部科学省と内閣府が連携し作成したものです。教材は、各学校や地域の状況等に応じ、使用することが可能です。詳しくは、文部科学省のホームページへ。 https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html

03 生理って恥ずかしいモノなのか

私たちは生理について話すことに抵抗があります。しかし、生理は女性にとって日常的なことであり、話すことに抵抗があるのはなぜだろうと疑問を持ち、調査で質問しました。

生理について誰となら話せるのか

Q 生理について誰となら話せますか。(複数選択可)



生理について話せる相手として最も多かったのは、「女性の友人」でした。続いて「母親」「パートナー」「姉妹」など女性が多くの回答を占めました。一方で「父親」や「男性の友人」などの男性を選択した人は女性に比べて少ない結果となっています。この結果から、生理について女性とは話せるが、男性には話しづらいと思っている女性が多いことが見えてきました。

Q 生理について当てはまるものものをおしえてください。(複数選択可)

10項目(複数選択)

- 生理について話すことが恥ずかしい
- 生理について話すことは良くないことだと思う
- 生理について話すと相手が不快になると思う
- 生理について話す必要は無いと思う
- 生理について他の人と比べられ嫌な思いをしたことがある
- 男性に生理のことで馬鹿にされたり傷付けられたことがある
- 生理について男性に理解を示してほしい
- 生理について話すとき(生理)というワードを使用しない
- 生理に関する体調不良でアルバイトや仕事先に休暇を申請できる制度があることを知っている
- 当てはまるものがない

これらの問いに対し、回答が多かったものを右に紹介します。





生理について
男性に理解を示して
ほしい **55%**

- 生理について話すことが恥ずかしいと思う反面、男性が理解を示してくれたら話しやすいと思うし理解してほしい。
- 生理用品を買うときに、なぜか恥ずかしくて、男性の店員のレジを避けてしまう。



生理について話すとき
「生理」というワードを
使用しない **34%**

- 急に生理になったときに、学校など公の場では「生理になった！」と友達に言うのではなく、「ガールズデー」になったと伝える。
- はっきり生理と言わずに、あれなどと表現している。
- 体育の男性教員にプールを休むとき、話しづらい。

生理について
話すことが恥ずかしい **18%**

- 下半身のことなので遠慮してる。
- 生理用のポーチをカバンから出してトイレに行くのが恥ずかしい。
- 男性上司に生理がきついで休みますとは言わず、なんとなく恥ずかしいし理解してもらえないと感じている。
- 家で母に生理の話をしたら、「お父さんに聞こえちゃうから、もう少し声を落として」と言われた。

生理について
話す必要はない **16%**

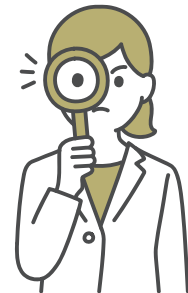
- わざわざ話さなくてもいいかなとは思う。
- 体調が悪いとかでなければ主張する必要はないと思う。
- 積極的に話すことではないように感じる。
- 別に話しても楽しくない。



自由記述から、以下のことがわかりました。

- ・ 生理は人前で話題にするものではなく、他の言葉に言い換えて話している。
- ・ 生理について理解をしていない男性がいると思っている。
- ・ 育った家庭環境によっては生理について話すことはタブーとされている。

これらは、すべて「生理に対する恥ずかしさ」につながっていると思います。この恥ずかしさは、どのように私たちの生活に影響していくのでしょうか。



生理休暇は取れるのか

Q 生理に関する体調不良で休暇を取ったことがありますか。(n=481)

この質問では、学生であってもアルバイトをしているなど仕事をしている人を対象としています。



生理が理由で休暇を取得したことのある女性は**26%**

「生理休暇を取りたいが制度がない」と答えた人は、6% (29人) いましたが、生理休暇は、労働基準法第68条「生理休暇」で定められており、『生理日の就業が著しく困難な女性が休暇を請求した場合には、その者を生理日に就業させることはできない。』とされています。ただし、有給か無給の定めはないため無給とする企業が多いのが現状です。その場合、無給なら有給休暇として取得したほうが良いと考える人が多いのではないのでしょうか。しかし、生理の症状が重い人の場合、有給休暇で休みを取ることが難しい現状もありそうです。26ページも参照してください。

Q どのように休暇を取得しましたか。(n=116)

上記の回答のうち、休暇を取得したことがあると回答した人に、どのように休暇を取得したかを聞きました。



生理に関する体調不良で休暇を取ったことがある女性のうち、
生理休暇を利用したことのある人は、たった**3%**

生理に関する体調不良で休暇を取得した人の内訳では「生理であることを伏せて休んだ」という人が全体の59%と半数以上を占めました。生理であることをそのまま伝えることに抵抗がある人が多いことがわかります。

生理休暇とは

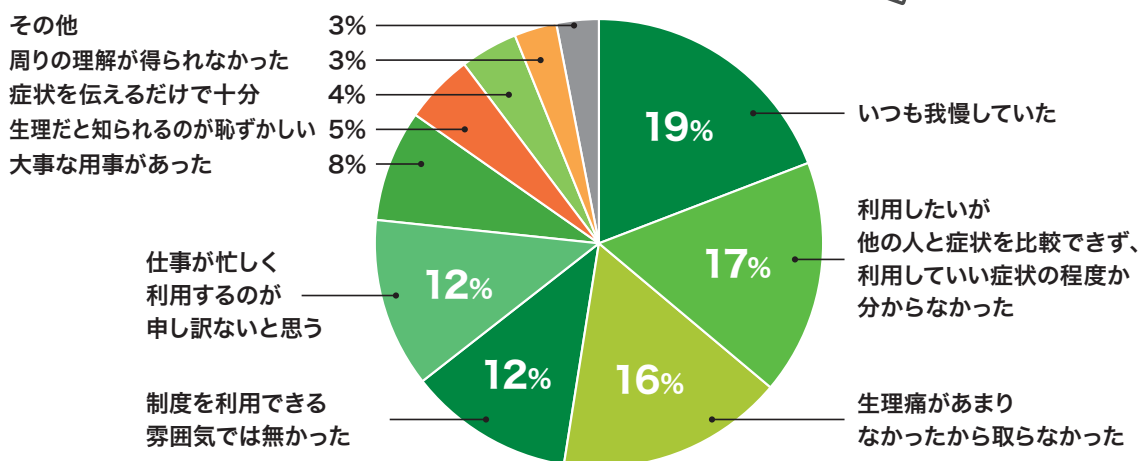
生理前および生理期間中の体調不良(頭痛、下腹部痛、倦怠感など)に伴い、就業がスムーズにこなせない従業員が申告した際に付与される休暇。労働基準法で定められている。



生理休暇を取らなかった理由

生理に関する体調不良で休暇を取らなかった人

Q 取らなかったのはなぜですか。(n=210)



6月のオンライントークイベントで、「なぜ生理であることを伏せるのか」について話し合ってみました。

みんなの声

- 男性が多い集団かどうかによって異なるのでは？
- 生理は自分に責任はないが、他の体調不良と一括りにされるかもしれない…。
- 自分の中にもマイナスなイメージがある。
- 生理休暇の制度を詳しく知らない。
- 周りに生理休暇を取得した人がいないから取りにくい。



休暇を取らなかった理由として、「いつも我慢していたから」という回答が最も多い結果となりました。「いつも我慢していた」という背景には、「制度を利用しにくい雰囲気」や「生理だと知られるのが恥ずかしい」があるのではないかと思います。

生理に対する恥ずかしさが、生理休暇取得を妨げているのかもしれませんが、また、その他の自由記述には、「生理休暇制度を利用しようとしたら、職場の人から嫌な言葉や態度を受けたことがあるから」「上司が男性だから取得をためらってしまった」などの意見もありました。

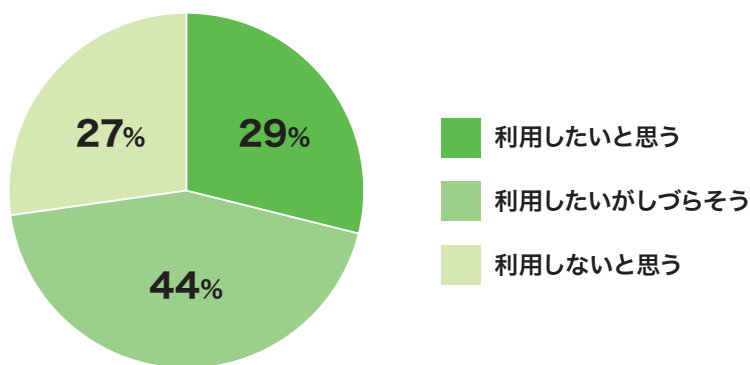
これまでの結果から、学生・社会人にかかわらず、生理という理由で休暇を取ったことがある人は多数いることがわかりました。

日本では労働基準法で、請求があれば「生理休暇」を取得させなければならないと定められています。

生理休暇を利用したいか

これから社会にでる学生は就職した際に、生理休暇を取得したいと思うのでしょうか。

Q 今後就職などをした際、生理休暇を利用したいと思いますか。



一番多い回答が「利用したいがしづらそう」となりました。まだ社会に出ていない学生がこのように感じるのはなぜなのか、オンライントークイベントを通して皆さんの意見を聞いてみました。

みんなの声

- 学生時代に制度がないから社会に出ていきなり使えない。
- 「～休暇」のハードルが高い。
- 男性には制度がないから休んでもいいのかと考えてしまう。
- 金銭面的に働きたい。
- 頭痛などの休みとは違い、休みを取った後の理解が得にくいため、それなら休暇を取ってしまう。
- 波風を立てずに過ごしたい。
- 無給だから会社員としての印象がよくない。

「恥ずかしい」と感じるより、生理休暇へのハードルの高さが多く挙げられました。また、「どうしたら休暇を取りやすくなるのか」について意見を聞いてみました。

どうしたら休暇を取りやすくなりますか

- 生理休暇を有給にすることで会社が生理について理解があると認識する。
- 生理休暇の取得を強制にする。
- 上司などが理解する。



働く環境は、実際にそこで仕事をしてみないとわからないですが、仕方がないとあきらめるのではなく、現状の課題を把握し、今より良くなるよう解決する方法を考え、声をあげていく必要があると思います。

マイクロン社 社員の意見 ※ P4 ②ジェンダーに関する調査結果のご紹介より

- 生理などで体調が良くないときは、「人として何かサポートをしたい」とも感じており、どのようなサポートが良いのか、なかなか難しい部分ではあると感じました。(40代男性)
- 生理休暇やキャリアの話が一番印象に残りました。会社は、どのような意識改革や行動したらいいかのヒントをいただければと思います。(40代男性)
- 生理の話に踏み込んで、男性社員に聞いていただき、なかなかできないことなので貴重な機会でした。生理の重い方は、生理だと言えずに年休を取得するとすぐに1年分なくなってしまうので、生理休暇は今後取りやすい環境や雰囲気を作ることが大事だと思います。上司が男女どちらであれ、職場が忙しいと言いつらいかもしれませんので、働き方全体、職場のカバー体制などマネジメント努力が必要だと感じました。(50代女性)

生理休暇制度の現状

女性労働者がいる事業所のうち、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの間に生理休暇の請求者がいた事業所の割合は3.3%（平成27年度 2.2%）※1

女性労働者のうち生理休暇を請求した者の割合は0.9%※2生理休暇中の賃金を「有給」とする事業所の割合は29.0%（平成27年度 25.5%）で、そのうち65.6%（同70.6%）が「全期間100%支給」としている。 ※2

※1 厚生労働省「令和2年度雇用均等基本調査」

※2 厚生労働省の令和2年調査(令和3年7月30日発表)

労働基準法(生理日の就業が著しく困難な女性に対する措置)

第六十八条 使用者は、生理日の就業が著しく困難な女性が休暇を請求したときは、その者を生理日に就業させてはならない。



厚生労働省

「令和2年度雇用均等基本調査」結果を公表します～女性の管理職割合や育児休業取得率などに関する状況の公表～

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-r02/07.pdf>

会社の就業規則に生理休暇の項目がない場合も、従業員が請求したら会社側は拒否できません。休暇を与えなければならないことが法律で義務づけられているためです。

生理休暇は法定休暇ですが、年次有給休暇以外の法定休暇は、有給・無給の扱いについて法律で定められていないため、有給で取得できるとは限りません。利用を検討するときは、就業規則を確認する必要があります。

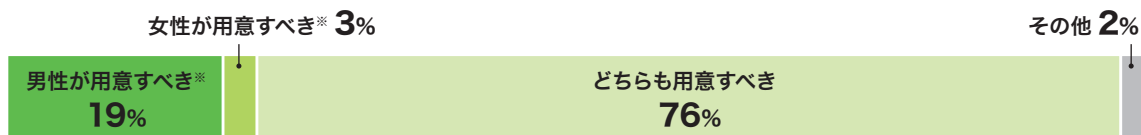


周りの環境を変えることで生理休暇の取得率は変わると考えました。また周囲の環境を変えることも必要ですが、休暇制度自体が利用しにくい、有給取得ができないという問題点もあります。すべての女性が生理休暇を利用したいときに利用しやすい環境、利用しても不利益を被ることがない制度の見直しが必要だと思います。

04 避妊アイテムって誰が準備する？

避妊アイテムは誰が用意すべきか

Q 避妊アイテムは、だれが用意すべきだと思いますか。



※ 男性が用意すべき：「男性が用意すべき・どちらかというとな男性が用意すべき」の合計
女性が用意すべき：「女性が用意すべき・どちらかというとな女性が用意すべき」の合計

76%と多くの方が「どちらも用意すべき」と回答しましたが、「男性が用意すべき」19%、「女性が用意すべき」3%と、どちらかが用意すべきという回答も少数いました。

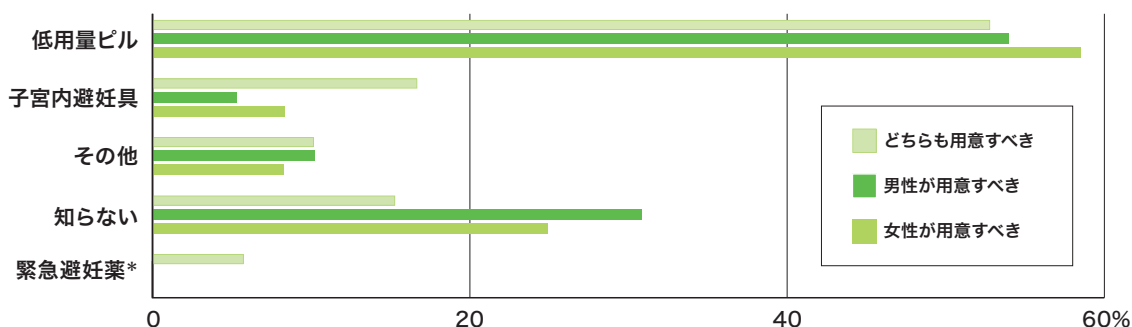
女性が主体的に避妊できる方法やツールは？

Q 女性側が主体的に避妊できる方法やツールがあることを知っていますか。



結果をみると、「どちらも用意すべき」と回答した人の16%が、また「男性が用意すべき」と回答した人の25%が、女性が主体的に準備できる"避妊アイテム"を知らないことがわかりました。

▶各回答ごとにあげられた避妊方法やツール



*緊急避妊薬は性行為の後に使用するものなので避妊アイテムではありませんが、今回の調査で多数の回答が出たため掲載しています。

各回答ごとに、あげられた避妊方法やツールを確認したところ、「低用量ピル」を選択する人が多い結果となりました。また、少数意見ではありましたが、「低用量ピル」以外の避妊方法やツールの回答もありました。回答にある「その他」には、避妊インプラントや膣用コンドーム等、日本では使用が認められていないものが記載されていました。

アフターピル(緊急避妊ピル)は避妊に失敗した、レイプされたなどの緊急時に性交後72時間以内に使用することで、高い確率で妊娠を防ぐことができるものです。妊娠を防ぐ最後の手段となる薬ですが、婦人科を受診しなければ処方されず、知らない人も多い現状があります。また、アフターピル代を女性に渡し、避妊しないという男性がいるという性暴力の話も聞きます。あくまでも緊急用の避妊薬であるということを多くの人に知ってほしいです。



女性が主体的に準備できる"避妊アイテム"として、「低用量ピル」という回答が多く、「薬局では手に入らない低用量ピル以外に、性行為のときに自分を守る方法を知らない」ということがわかりました。女性が主体的に準備できる、低用量ピルや子宮内避妊具は、いずれも婦人科への受診が必要であり、保険適応外となる場合が多く費用の負担も大きくなります。

「女性が主体的に用意できる避妊アイテムの認知度の低さ」って？

6月に開催したオンライントークイベントでは、18~25歳の女性たちに女性が主体的に用意できる避妊アイテムの認知度の低さについてどのように感じているかを聞いてみました。

みんなの声

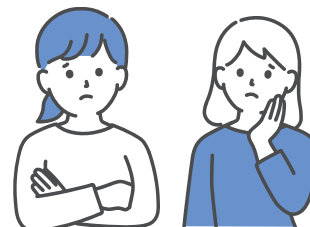
- 知らないものが多いなと思った。
- (イベントで紹介した)パンフレットをはじめて見た。
- たくさんの種類を知って(自分の)知識が少ないことを改めて感じた。
- 性教育を授業で受けることがなかった。
- 知る機会がこれまでになかった。
- 自分でキャッチしないと得られない情報もあると感じた。
- 学校でも学んだことがない。

これらの声を受けて、私たちは、そもそも、自分たちが主体的に準備できる"避妊アイテム"自体にあまり意識や関心がないのではないかと考えました。

6月のオンライントークイベント参加者の意見からも、日本では女性自身が避妊アイテムを用意するのは容易でないことがわかります。

みんなの声

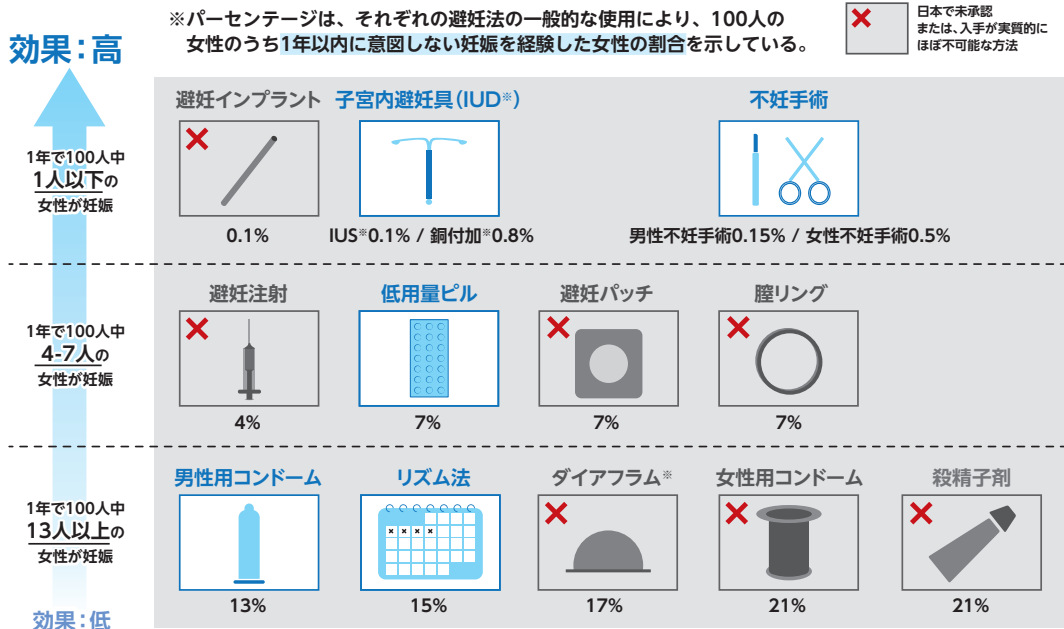
- 女性用の避妊アイテムが高額ということも知らなかった
- 病院にいかないといけない=簡単ではないと思う
- 男性用コンドームはドラッグストアで購入できるのに…



今回の調査では、「女性が主体的に用意できる避妊アイテムを知っているか」を問いましたが、男性が主体的に用意できる避妊アイテムももちろんあります。大切なのは、パートナー間で何を選択するのかを話し合い、決めることだと思います。

世界のさまざまな避妊法

▶世界のさまざまな避妊法と効果



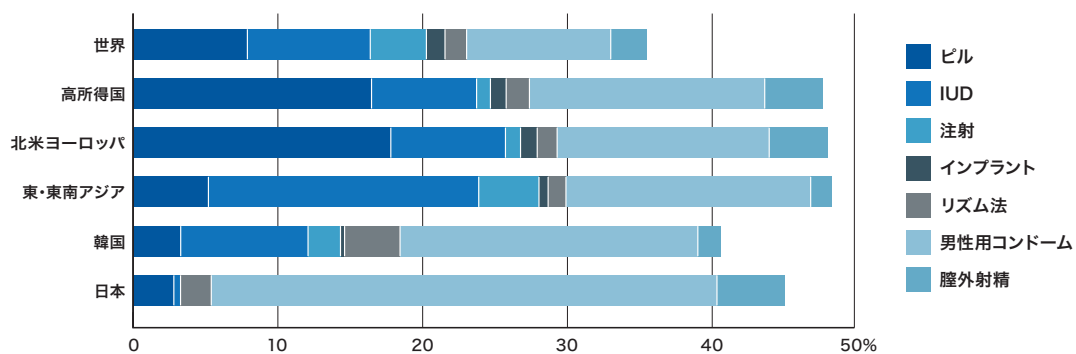
#なんでないのプロジェクト提供 EFFECTIVENESS OF FAMILY PLANNING METHODS(CDC, 2014)より作成
 参考: <https://www.cdc.gov/reproductivehealth/contraception/mmwr/spr/intro.html>
<http://www.contraceptivetechnology.org/wp-content/uploads/2013/09/Contraceptive-Failure-Rates.pdf>

※IUD / IUS: 子宮内避妊具。Intrauterine deviceの略 / Intrauterine Systemの略で、避妊の目的で子宮内に装着する小さな器具のことです。
 銅付加: 子宮内避妊具。
 ダイアフラム: ドーム型の器具。子宮口にかぶせ、カバーすることで精子の侵入を防ぐ。

この図は、一般的に使われている世界のさまざまな避妊法を効果が高い順番に並べたものです。日本でよく使われている、「男性用コンドーム」は、外れる可能性があり、「低用量ピル」は飲み忘れの恐れがあることを考慮して作成されています。

▶世界で使用される避妊法

#なんでないのプロジェクト提供
 Contraceptive Use by Method (United Nations, 2019)より作成

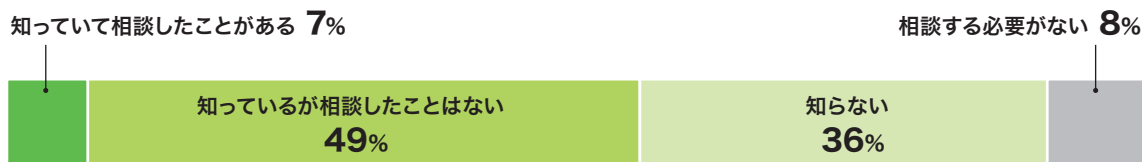


日本ではピルが **2.9%**、IUD* **0.4%**、リズム法 **2.1%**、男性用コンドーム **34.9%**、膣外射精は **4.5%**

日本では圧倒的に「男性用コンドーム」が多く、また世界と比べると「膣外射精」がトップという結果になっています。この結果は、「女性側が主体的に避妊できる方法やツールがあること」への認知度が低いだけでなく、日本で使用できる避妊アイテムの選択肢が他国と比べて少ないことも原因だと考えられます。

相談できる場所や機関(避妊・性感染症など)

Q 避妊・性感染症などについて、相談できる場所や機関を知っていますか。



今回の調査では「相談機関に相談したことがある」人は7% (32人)であることから、実際に女性が避妊アイテムを使用する機会はかなり少ないと考えられます。

パートナー間で同意のもと互いが納得できる避妊方法を探ることが最も大切なことだと思いますが、今回の調査では残念ながら以下のような悲しい現実の声もありました。

- 同意と言われれば同意だが、相手が先輩で断ることができるとは思えなかったためそのまま成り行きでしてしまった。
- たまたま大学の男の友達と授業終わりに2人になってから突然告白されて無理やりホテルに車で連れていかれた。
- 避妊を頼んだのに少しかけ、と無理矢理避妊せずに行為をされた。
- パートナー宅に行く度性行為を求められ、気分じゃない日や疲れている日は嫌だと伝えたが、なし崩し的に結局性行為をされていた。
- 嫌だと言っても強要された。



残念ながら日本では性犯罪が明るみに出ないことも多く、また女性が被害にあうことが多いのが現実です。被害にあった際、なかなか相談することは難しいと思いますが、自分の身を守る一つとして、相談機関があるということを多くの人に知ってもらいたいです。

私たちは、パートナー間で「同意のもと互いが納得できる避妊方法を話し合い決める」ことが当たり前の世界の実現を目指したいです。

相談機関を利用する人が少ないのは、なぜでしょう。

オンライントークイベントの参加者に「相談機関で相談しない理由」と「相談しやすい条件」について聞いてみました。

相談しない理由

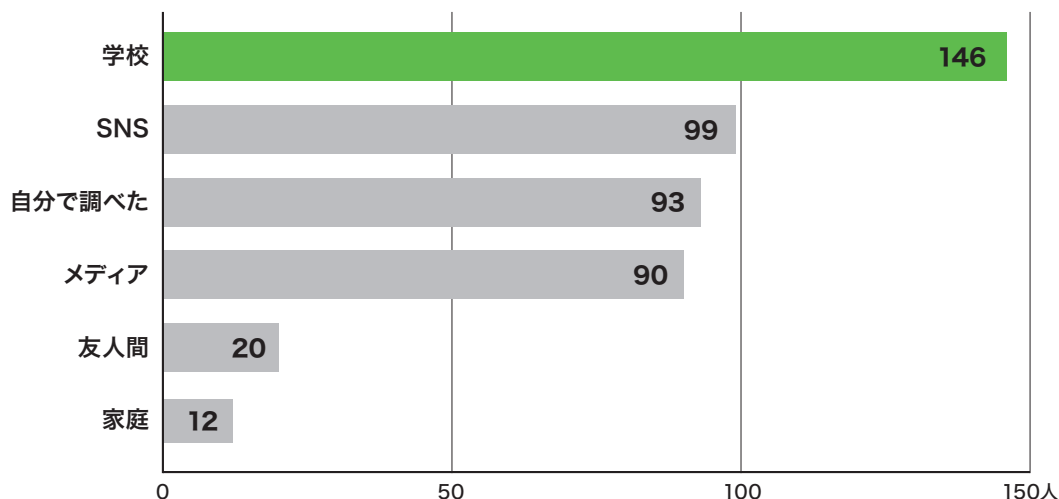
- 専門的な病院であっても、話すことに抵抗がある
- 婦人科=妊婦が行くイメージなので抵抗がある
- 何となく行きづらい
- 病院内の人の目が気になる
- そういう場所があることを学校で教えられなかった
- 家庭などで話題にならない、話すきっかけがない

相談しやすい(行きやすい)条件

- レディースクリニック(名前も呼ばれない・保険証も必要時のみ・匿名性が保たれる)
- 病院(相談機関)の開いている時間が長い

性感染症や避妊方法はどこで学ぶのか

Q 性感染症や避妊方法についてどこで知識を得ていますか。



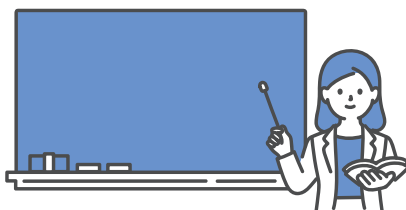
「性感染症や避妊方法についてどこで知識を得ているのか」という質問では、学校が一番多いという結果が出ています。

しかし、6月のオンライントークイベントでは学校によって指導の内容が異なることがわかりました。

みんなの声

- 授業で性教育を受けることがなかった
- 授業で聞く機会はあった(女子高)
- 知る機会がなかった(共学)
- 売ってない避妊アイテムばかりを聞く機会があった(ひと昔前の情報だった)
- 学校によって教えられるものが異なる(性感染症の予防としてはあるかもしれない)
- 中学校の場合、学習指導要領で避妊・中絶などは入っていないらしく、そこは教えられなかった

これらの意見も、女性が主体的に準備できる"避妊アイテム"への認知度の低さにつながる問題だと考えました。そのため、学校という場を正しい知識を全員が学ぶことの出来る環境にすることが必要だと思えます。



6月に開催したオンライントークイベントにご協力いただいた、
#なんでないのプロジェクト 福田和子さんから、
頂戴したメッセージを紹介します。

▶ MESSAGE

周りにどう思われるとか、
目先の利益になるかならないかではなく、
いま心が惹かれることをとことん大事に。

その中で出会う人たちとのご縁に感謝、大事に。

あなたの違和感、生きづらさ、
悲しかった・辛かった思いは、より良い未来を
作るための力に変えられる。

自分のペースで、
自分にあった形で、等身大のあなたで
自分の心を大切に。

#なんでないのプロジェクト 主宰 福田和子氏

2018年に#なんでないのプロジェクトを立ち上げ、
日本でも性と生殖に関する健康権利を当たり前を守る社会を目指している。

- スウェーデンヨーテボリ大学大学院で公衆衛生修了
- 国際セクシュアリティ教育ガイダンス共同翻訳者(明石書店)
- #緊急避妊薬を薬局でプロジェクト 共同代表

ここまで、18～25歳の女性が思っていることをストレートにまとめてきました。女性は、「女の子らしさ」という言葉に縛られています。また、多様さを認められず、「女性だから」と一括りにされることの影響はキャリアにも及んでいます。さらに、女性特有の生理については、オープンに話すことをためらう女性が多いのが現状です。避妊アイテムに関する情報は少なく、いざ相談先が必要になっても、「どこに相談したらいいか、分からない」女性もいることがわかりました。

「女性らしく」ではなく「自分らしく」生きられる社会へと少しずつ変化が起きている今、「考え方」が形成される子どものときから、性別に縛られない言葉がけや生き方が当たり前の環境が必要だと思います。

そのために必要なことは「教育」のあり方の変革です。今回の調査によせられたさまざまな声からも、教育の現状に課題があることや、その現状を改善していく必要があることがわかります。

例えば、

- 理想の女性像を先生から押し付けられた。
- 生理に関する内容は、学校では女子のみだけ集められて話される。
- 避妊アイテムについて学校で習ったことがない。何かあったときの相談先を知る機会がない。

などです。

誰もが学校教育を受ける権利を持っています。学校教育のカリキュラムにジェンダーに関するさまざまな教育を組み込むことが、子どもが思考力・判断力を形成するための必要な知識を得られます。そのためには、まず性別役割分担につながる先生たちの無意識な言葉がけをなくしていく必要があります。そして、学校だけでなく、家庭や社会でも学ぶ機会を作っていく必要があります。

私たちガールスカウトは、就学1年前の少女から成人女性までが活動する社会教育団体です。ガールスカウトでは活動を通してジェンダーについて学ぶ機会を提供しています。同年代(ピア)で話をすることで「恥ずかしい」気持ちは軽減され、体についても学びやすくなります。また、将来に悩み、どう生きたいかを考えるときにも、身近に多様なロールモデルがいることは、大きな支えになります。

今回、調査に携わった私たち10代・20代は、自分たちの過去・今をふりかえり、未来を見据え、こう考えています。

- ・「女の子らしさ」が求められることなく、一人ひとりが可能性を伸ばせる社会の実現。
- ・多様な考え方や夢が尊重され、挑戦しても良いと思える機会の提供。
- ・少数派だからと、尊重されない環境の解決。
- ・生理に関して学ぶ機会を増やし、多くの人が理解しオープンに話せる環境の実現。
- ・性的同意が当たり前であり、自分の心と体を尊重できる社会の実現。
- ・相談したいとき、必要な相談先につながれる環境作り。

私たちが社会に対してメッセージを発信し続けることで、誰もが明るく、希望ある未来を過ごすことが出来ると信じています。

皆さんはどのような社会を実現したいですか？

皆さんの思い描く理想の社会を、私たちと一緒に実現していきましょう。

2022年12月

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

ジェンダーに関する調査2022 ユース実行委員会

海老沢真由、秋月奏子、菊川愛梨沙、辰巳真穂

松下真純、梅井真歩、河村明音、鈴木麻綸



制作・協力

公益社団法人ガールスカウト日本連盟
大学生調査2020 ユース実行委員会
海野友希乃、松本董、結城萌、志村恵実

SDG5委員会 調査担当

西寿美代、木村侑加、篠宮さおり

調査報告書制作・協賛

マイクロン女性リーダーネットワークメンバー





発行：公益社団法人ガールスカウト日本連盟

〒151-0066 東京都渋谷区西原1丁目40番3号

<https://www.girlscout.or.jp/>

この資料に関するお問い合わせ stv@girlscout.or.jp

2022年12月発行

定価：1,000円(税込1,100円)

